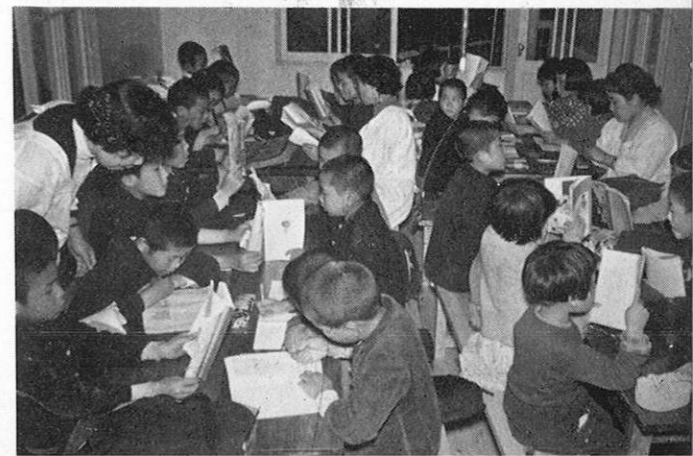


→男の子たちの部屋で……思い々に結構たのしそうである。

←「行ってきます」ホームから登校する子供たち……★



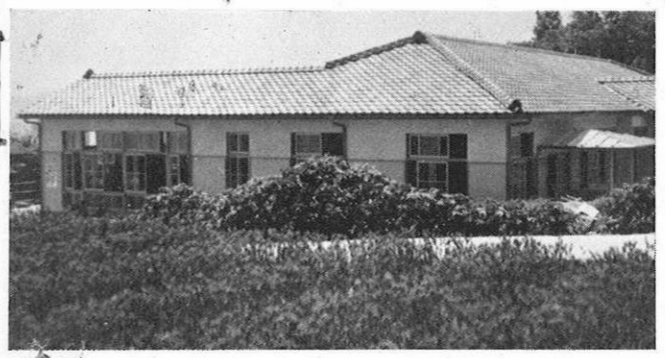
↓そろって夕食のひととき、保母さんも大車輪……★



海の見える児童ホーム

天草郡倉岳村

潮風のおいげなつかしい、縁につままれた、それは海の子供たちのたのしい集いの広場です。(★くわしくは、13頁をお読み下さい。)



児童ホームが明るい日ざしの中に見える……★
→右・子供の衣服の心づかいも細い保母さんたち
右下は夜の学習、保母さんも子供たちの仲間入り……★
↓学校から帰つたら、進んでホームの仕事を手伝う子供が多い。



★ 天草郡倉岳村 ★

児童ホームをたずねて

潮風も爽やかに

うららかな春の四月。天草郡(上島)倉岳村字宮田の海にほど近い青い麦畑の傍に、うすい茜色にいろどられた明るい屋根が鮮かに浮かび、クリーム色の建物はやわらかな影を投げかけています。ここは、全国に先がけて建てられた県下になつた一つの「児童ホーム」。そして今日はその落成式を迎えることになつたのです。

開式前のひととき、ちよつと、ホームの中を覗いてみますと、黒い制服を着た男の子や、赤いスーターの女の子が、木の香もま新しい室内のあちこちで絵本を読んだり、ママごっこを無心につづけてりしています。

庭のところで、まだ建築工事に使われた材木のノコ屑が残されており、その一隅では暖かな春の陽差しを浴びた男の子が、元氣よく押しくらまんじゅうにけんめいです。

県下一円の貧しい子たちに

午後二時、待ちに待った落成式がホームの学習室(兼遊戯室)で、さやかに開かれました。開式の辞や工事経過の報告があつたのち、今日の喜びと感激とを満面にたたえた倉岳村の蓮田村長さんは、「……この宮田地区はわずか三百戸の小さな村です。そして、その殆んどが零細な農漁家で、近來の漁業不振を打開するために、どうしても種子島方面の新しい漁場を求めて、生活の活路を拓かねばならなくなつたのです。ところが、ここに残された問題というのが、それらの親をもつ子供たちのことでした。

通学児である子供たちは、親たちが長い月日をかけて海に出ているあいだは、親類やお年寄りに預けられたまま放任された中では親と共に船に乗り込むといった具合で、どうしても学校の方がおろそかに

なつてしまふのが現状でした。また乳幼児となり、注意が及ばないのが困る大きな病気をしたり、時には事故なども起りまして、これらの問題は生活の貧困と大きく絡んで子供たちの不幸をつくつてしまつていたのです。

以上のような実情を日夜見るにしのびなかつた旧金子村長さんほか村の熱心な方々は、どうにかしてこの子たちを貧しさから救ひあげて、出漁して働く親たちの心の安らぎと子供たちの明るい成長とを願わずにはいられなかつたのであります……

と深い眼差しに子供への情愛をこぼさるるの姿が、当時の様子を話されるのでした。

三十年十月にいよいよこの問題と取り組んでから施設のできあがる今日まで、すでに故人となられた旧金子村長さんの遺志を汲んだ蓮田村長さんは、県や県議会などの大きな協力を得て、次々と横たわる多難な障害を一つ一つ乗り越えながら、この児童福祉施設完成の喜びを感慨深そうに語られたのです。

「この施設は決して長欠児だけを収容するといふだけではなく、県下一円にひろがるこのような貧しい不幸な子供たち

を、ぜひ此処に預らせていたきたいというのが、私共の本来の念願でもあるのです。」

蓮田村長さんは、そう語を継いで「児童ホーム」の充実した発展を今後強く期待されているのです。

国からの補助もあつて

ところで、この児童ホームは、倉岳村役場の直接経営で、児童福祉施設(養護施設)として昨年十一月末に着工、今年三月十日に完成をみたわけて、総工費三百二十万円のうち国から八十二万円の補助をうけてお目見得したのです。敷地が一、〇〇〇平方メートル(三〇二坪)で建物の面積は三〇〇平方メートル(九四・五坪)です。現在定員三十名に対してさつそく二十九名の児童が職員(園長、書記、保母三名)調理士一名、嘱託医一名、小使一名)の温かい保護のもとで元氣に毎日を通しています。

五月晴の青い空の下で、この子供たちは遠くお父さん、お母さんの船上でのお仕事を想いながら、たのしい「こどもの日」を迎えたことでしょう。(広報課)★「児童ホーム」の写真は十二頁をこら下下さい。